

2024_1217「極夜のおぼろ月（写真）」日々の理科 3785号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

冬至の近づいた北極圏は、現在太陽が一日中昇らない「極夜（きょくや）」の季節を迎えています。極夜の北極圏で、自然の光といえば「極光（オーロラ）」と「月明」だけです。私は氷点下41度の極夜の雪原を、勇敢にも一人で歩いたことがあります。その日は快晴でしたがオーロラの出現はなく、満月だけが光っていました。月の光は、かえって付近の風景を寒々しく照らしていたような気がします。

先日の「コールド・ムーン」を遠隔で観測しようと思ったのですが、この日の北極圏は曇り。満月は見えていましたが、「おぼろ月」でした。雪原は凍った湖に積もった雪、遠くの灯火は対岸の村、手前の柵は鉄道駅の小さなプラットホームです。今の時期、臨時列車以外は走っていないので、線路は深い雪に埋もれています。こういう景色を見ると「地球温暖化」なんて、うそのように感じます。

(2024年12月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス／東京から遠隔観測)

